

令和 8 年度「日本絹の里大学」受講生募集

今年も「日本絹の里大学」を開校します。
絹や蚕に関わる様々な分野の専門家が解説いたします。
一緒に勉強しませんか！



《令和 8 年度カリキュラム》 (裏面をご覧ください)

期 日	講 師 紹 介
9 / 5 (土)	① くくり 養蚕クリエイター 内田 由希江 ② 養蚕農家 高橋 直矢
9 / 19 (土)	③ 泉織物有限会社 代表取締役 泉 太郎 ④ 群馬県蚕糸技術センター 所長 樺澤 和彦
10 / 3 (土)	⑤ 碓氷製糸株式会社 安中市地域おこし協力隊 真野 涼平 ⑥ 伊勢崎銘仙プランナー 金井 珠代
10 / 24 (土)	⑦ シルク博物館 館長 高橋 典子 ⑧ 富岡市 世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター 結城 雅則 総合調整幹・学芸員

- ◆会 場 日本絹の里 2 階会議室
- ◆開講時間 13 : 30 ~ 15 : 50 (講義内容により時間が多少変わることがあります)
- ◆受講料 (教材費含む) 3, 0 0 0 円 (開校式当日に徴収いたします)
 - ・講義開催日は、特別展等の観覧料が受講生は無料になります。
 - ・受講年度の「日本絹の里紀要」を 1 冊差し上げます。
- ◆修了証書の授与 5 講座以上出席された方には、日本絹の里館長から修了証書を授与いたします。
- ◆募集人数 5 0 名 (応募者多数の場合は抽選とさせていただきます)
- ◆応募方法 往復ハガキの往信裏面に、①氏名 (ふりがな)、②住所、③郵便番号、④年齢、⑤電話番号、返信表面に、ご自身の①住所、②氏名を記入のうえ、日本絹の里「日本絹の里大学係」あてにお申し込みください。

※切 令和 8 年 8 月 2 1 日 (金) 必着



日本絹の里
NIPPON SILK CENTER

〒370-3511 群馬県高崎市金古町 8 8 8 - 1

TEL 027-360-6300 / FAX 027-360-6301

令和8年度「日本絹の里大学」カリキュラム

開催日	時 間	講 義 題 目	講 師	講 義 内 容
9月5日 (土)	13:30～13:40	開 校 式		
	13:40～14:40	ライフワークとしての養蚕	くくり 養蚕クリエイター 内田 由希江	医療従事者から養蚕農家になった経緯、養蚕の技術・文化・歴史を伝承しつつ、蚕の恩恵を暮らしに活かす活動に加え、様々な立場の方々とチームで取り組んでいるプロジェクトなど、くくりスタイルの養蚕を紹介します。
	14:50～15:50	「養蚕とはどういった仕事なのか」	養蚕農家 高橋 直矢	養蚕農家の激減で身近な産業ではなくなりつつある養蚕ですが、お蚕を飼うとはどういう仕事なのか、基本的なことから養蚕農家の現状などについて、現場の目線でお話をさせていただきます。
9月19日 (土)	13:30～14:30	織都1300年 織物の町 桐生産地と桐生織・桐生絞り	泉織物有限会社 代表取締役 泉 太郎	桐生産地の簡単な歴史と「桐生織」・「桐生絞り」とは。桐生織は、他の産地と比べ何を織っている産地か分かりづらい産地と言われています。では桐生織とは何か簡単な歴史や伝統的工芸品である桐生織の解説等を交えお話をさせていただきます。また、当社のものづくり桐生織と桐生絞りについてもお話をさせていただきます。
	14:40～15:40	群馬県における養蚕の現状と担い手対策	群馬県蚕糸技術センター 所長 樺澤 和彦	養蚕業はいま危機的状況にあり、その最大の原因は担い手の不足です。群馬県では伝統ある養蚕業を次代へ繋げるため、様々な担い手確保対策に取り組んでいて一部成果も現れてきています。今回は、群馬県養蚕業の現状と、蚕糸技術センターで取り組む新規希望者向け養蚕講座等についてお話しします。
10月3日 (土)	13:30～14:30	地域おこし協力隊としての活動と 碓氷製糸株式会社での製糸技術習得の日々	碓氷製糸株式会社 安中市地域おこし協力隊 真野 涼平	日本の伝統産業である蚕糸業が存続の危機に立つ今、次世代まで守りたいという強い思いで、安中市地域おこし協力隊として活動を開始しました。碓氷製糸を拠点にシルクや製糸について発信しながら、製糸技術の継承に励んでいます。現場に飛び込んだ若者が、日々繭とどう向き合い、蚕糸業の未来をどう描いているのかを、活動報告も交えながらお話をします。
	14:40～15:40	21世紀銘仙復活のその後 ～銘仙あれこれ話～	伊勢崎銘仙プランナー 金井 珠代	2016年、伊勢崎銘仙の併用緋(へいようがすり)を半世紀ぶりに復活させた「21世紀銘仙プロジェクト」。無事3柄完成し、そのうちの「赤いレンガ造り」が英国のヴィクトリア&アルバート博物館に永久保存されました。「さあこれから」という時に起こった悲喜劇、あれから10年の裏話あれこれ。
10月24日 (土)	13:30～14:30	世界へ輸出された「横浜スカーフ」	シルク博物館 館長 高橋 典子	戦後、横浜の地場産業として大きく発展した「横浜スカーフ」について、その歴史的変遷や特徴などをお話しします。横浜のスカーフ製造は、幕末の絹手巾(ハンカチーフ)の輸出から始まったと考えられています。が、如何にしてスカーフ製造へとつながっていったのか、また、どのようなスカーフが作られたのか、シルク博物館に遺る資料等からご紹介します。
	14:40～15:40	富岡製糸場誕生を支えたフランス商社 —エシュト・リリエントール商会の実像—	富岡市 世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター 総合調整幹・学芸員 結城 雅則	幕末の横浜居留地に進出したフランス系貿易商社「エシュト・リリエントール商会」。富岡製糸場の設立に深く関わった同商会の実像を紹介し、生糸貿易や日本の近代化に果たした歴史的役割を考察します。世界遺産誕生を支えた知られざる国際交流の足跡を辿ります。
	15:50～16:00	閉 校 式		